

SSO 基盤構築のための Shibboleth-Driven Approach

発表者 五十嵐 一浩 (成城大学メディアネットワークセンター)

成城大学では、部署毎案件で稼働した Web サービス増加の影響で、ユーザーは複数 ID/パスワードの管理を強いられている。時折聞こえてくる不満の声を認識しつつも、システム管理者発信の SSO 環境構築予算要求は長く認められなかった。そんな状況に転機をもたらしてくれたのが学術認証フェデレーションの存在である。

GakuNin 参加要件を整えることで、一貫性が欠如していた学内認証基盤の方向性が見えてきた。その上、フェデレーション参加の恩恵として、既存システムの大規模改修や追加投資をすることなく、ユーザーには DreamSpark や Fshare 等のサービスを提供できるようになった。ユーザーに SSO の利便性を体感してもらうことは、認証基盤強化を全学的な予算要求へとシフトさせる原動力となり、さらに、部署毎導入 Web サービスの Shibboleth 化への働きかけを通じて、部署間連携改善効果も見込まれると期待している。

本事例発表では、メディアネットワークセンターで順次進めている Web サービスの Shibboleth 化について、AEAuth 経由での Yahoo!Mail Academic Edition 認証や、2011 年 4 月から運用開始予定の外国語学習教材 ALC 社 NetAcademy2 の Shibboleth 対応について触れながら、GakuNin 参加経緯と今後の計画について述べる。

【Active Directory を中心とした成城大学の認証基盤】

